

VOICES from the ARCTIC

Vol.44 / 2024.12.26

ArCS II 国際政治課題
北極域実践コミュニティ事務局



ムルマンスク州で原油流出が 確認される



ロシアの北極域の首都であるムルマンスク市のピェルヴォマイルスキー地区で、大規模な原油流出が確認された。流出は、コラ湾の最も奥まった部分、バレンツ海に流れ込むトゥロマ川沿いで発生していると、ロシアの環境監視団体Rosprirodnadzorが7月15日、以下のよう
に『Vkontakte』で報告した。同報告書によると「水サンプルが採取され、汚染物質「石油」の最大許容濃度を大幅に超える数値が確認された。流出油はバレンツ海に向かって広がっており、汚染のルート全体にわたって、コラ湾の海岸線に石油製品の飽和スポットが確認されている。」流出が7月1日に発見されたにもかかわらず、当局は流出事故の責任者を特定出来ておらず、一般市民に協力を呼びかけている。

記事参照：Oil spills detected in Murmansk region - ArcticToday (2024.7.17/Arctic Today)

バレンツ海でプラスチック 廃棄物が増加しているとの 調査結果



ノルウェー海洋研究所とノルウェー極地研究所が実施した新たな研究によると、バレンツ海全域でゴミの投げ捨てとマイクロプラスチックの量が増加している。科学者によると、汚染の主な原因のひとつは漁業であると、ノルウェーのニュースサイト『iTromso.no』が伝えている。漁業中に漁具が失われ、ロープの切れ端が散乱し、年々それがますます増えて環境を汚染している。研究によると、40年間に、胃の中にプラスチックを保有するタツノオトシゴの割合が29%から95%に増加しており、タツノオトシゴはプラスチックを餌として子どもたちに与えていることがわかっている。また、海鳥の大部分も胃の中にマイクロプラスチックを保有している。

記事参照：Plastic waste has increased in the Barents Sea, study shows - ArcticToday (2024.7.25/Arctic Today)

北大西洋におけるノルウェーの戦略的プレゼンスを強化するヤンマイエンへの新たな投資

ノルウェーの離島にある建物やインフラの大規模改修に、数億クローネが投じられる予定だ。「これはノルウェーとノルウェー軍にとって非常に重要なプロジェクトだ」と、ノルウェー軍施設整備庁の Thorbjørn Thoresen 長官はコメントで述べている。「ヤンマイエン島は海に浮かぶ孤立した島だ。このプロジェクトには、地質学的、地理学的、および後方支援面での独自の課題が含まれている」と彼は説明する。「新たな施設の建設は、将来的にヤンマイエンにおけるノルウェーの存在感と主権を強化する上で非常に重要だ」と、ノルウェーサイバー防衛のリーダーである Halvor Johansen 准将は述べている。

記事参照：New investments in Jan Mayen to strengthen Norway's strategic presence in North Atlantic - ArcticToday (2024.7.9/Arctic Today)



ヤンマイエン島の戦略的位置づけは、ノルウェーにとってますます重要性を増している。

(Source : Norwegian Armed Forces)

ロシア海軍、艦隊の大半を動員した大規模演習を開始

モスクワ（ロイター） - ロシア国防省は火曜日、ロシア海軍が艦隊の大半を動員した演習を北極海と太平洋、バルト海、カスピ海で開始したと発表した。同省によると、2万人の兵員と300隻の艦船が参加する今回の演習では、あらゆるレベルにおける海軍の即応性と能力が試されることになる。同省によると、戦闘訓練には、約300隻の水上艦艇およびボート、潜水艦、支援艦艇、約50機の航空機、200以上の軍用および特殊装備部隊が参加する。2022年2月にウクライナへの侵攻を開始して以来、ロシアは単独または中国や南アフリカなど他国と共同で、数多くの軍事演習を実施している

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/russian-navy-starts-major-drills-involving-most-of-its-fleet/> (2024.7.31/Arctic Today)



2024年7月30日に公開されたビデオの静止画像。

ロシア軍の兵士が、非公開の場所で行われた海軍演習中に軍艦から発砲している。(Source : Handout via REUTERS)

カナダ、北極域警備のため 最大12隻の潜水艦取得に 踏み切る

オタワ(ロイター) - 北極域の防衛強化を目指すカナダは、最大12隻の潜水艦の取得を進めており、国防省は水曜日、メーカーとの正式な協議プロセスを開始したと発表した。カナダは今年、北極域の保護とロシアおよび中国からの課題への対応に重点を置いて防衛政策を更新した。国防省は声明で、潜水艦の調達はその戦略を実施する上で重要なステップであると述べた。カナダは、2023年にNATOの同盟国間で合意された国内総生産(GDP)の2%に相当する国防費の増額をアメリカに迫られていた。地球温暖化により2050年までに北極海がヨーロッパと東アジア間の最も効率的な航路となる可能性があることから、海上安全保障の強化の必要性が高まっている。

記事参照：Canada takes step to acquire up to 12 submarines to guard Arctic - ArcticToday (2024.7.11/Arctic Today)



2024年6月17日、カナダ・オンタリオ州オタワの国会議事堂にある下院のロビーで、カナダ国防大臣ビル・ブレアが記者会見を行った。(REUTERS/Blair Gable/File Photo)

インドの北極域への野望は後退、ロシアとの協定は凍結へ

インドがロシアとの後方支援協定を通じて北極域での海軍プレゼンス拡大を狙っているが、その計画に後退が生じていると「EurAsian Times」が報じている。大きな期待が寄せられていたにもかかわらず、ナレンドラ・モディ首相の最近のロシア訪問では、相互後方支援協定(RELOS)の調印には至らなかった。

記事参照：[India's Arctic ambitions face setback as pact with Russia put on ice - ArcticToday \(2024.7.11/Arctic Today\)](https://www.arctictoday.com/news/indias-arctic-ambitions-face-setback-as-pact-with-russia-put-on-ice-2024-7-11)

NORAD、共同飛行中の 中口爆撃機に対応 初の事例

(CNN) 北米航空宇宙防衛司令部(NORAD)は24日、アラスカ付近の上空を飛行していたロシアの爆撃機2機と中国の爆撃機2機をインターセプトした。一緒に飛行していた両国の航空機に対応したのは初めてだったと思われる。ロシア軍機がアラスカ州のADIZを飛行するのは珍しいことではなく、5月にも4機が飛行していた。

しかし中国機の飛行は新たな展開だったと思われる。米北方軍のグレゴリー・ギョー司令官は今年3月、中国が北極圏への進出を深めており、「早ければ年内にも」航空機を飛行させる可能性があるとして、強い懸念を示していた。

記事参照：

<https://www.cnn.co.jp/usa/35221918.html>
(2024.7.25/CNN)

米国沿岸警備隊のアリュシャン列島における中国軍との遭遇、そしてその意味するもの

米軍は過去数年にわたってアリュシャン列島やベーリング海でロシアや中国の船舶と遭遇しているが、その一連の出来事の最新のもの、沿岸警備隊がプレスリリースで発表した。専門家は、氷のない状態が増えている北極域で各国が優位に立つために動き出しているため、今後はさらに多くの同様の事件が起これと予想している。また、中国とロシアが台湾や太平洋の他の地域での紛争に発展する可能性がある米国の軍事インフラを調査していることも、その要因である。その後のプレスリリースで沿岸警備隊は、中国船団はアメリカの「排他的経済水域」内の水域を航行していると発表した。この水域は沖合200マイルに広がり、魚などの天然資源に対する権利を米国が独占している地域である。専門家は昨夏、増加するロシアの石油貨物がベーリング海峡を通過して中国に輸送されていることを確認したと述べ、その傾向はウクライナでの戦争と北極海の氷がますます減少していることの結果であると説明した。

記事参照：[Inside the U.S. Coast Guard's Aleutian encounter with China's military — and what it means - ArcticToday](https://www.arctictoday.com/news/inside-the-u-s-coast-guard-s-aleutian-encounter-with-china-s-military-and-what-it-means-2024-07-15)
(2024.7.15/Arctic Today)



北極圏で中口の協力拡大、地域安定に影響も 米が警鐘

[ワシントン 22日 ロイター]-米国防総省は22日、ロシアと中国が北極圏で協力関係を強めており、地域の安定に影響を与える可能性があるとして警鐘を鳴らした。米軍の北極圏戦略に関する報告書で、ロシアが同地域にある数百カ所のソ連時代軍事施設を再開したと指摘した。地球温暖化で氷が解ける中、中国も北極圏の資源開発や航路開拓を狙っている。報告書は中国とロシアが北極圏で協力を拡大しているとし、両国間には「依然として大きな意見の相違があるが、同地域で両国の連携が強まっているのは懸念すべきで、(国防総省は)この協力関係を引き続き注視する」と述べた。

記事参照：

[https://jp.reuters.com/world/us/J2VG2N440BLCLBQ4PVO6GMTQQ-2024-07-23/\(2024.7.23/Reuters\)](https://jp.reuters.com/world/us/J2VG2N440BLCLBQ4PVO6GMTQQ-2024-07-23/(2024.7.23/Reuters))

←2021年、ウナラスカ島付近を航行する米国沿岸警備隊のカッター艦キンボール（右）と日本の練習艦。キンボールは先週末、アリュシャン列島付近で活動していた中国戦闘艦の一団を阻止した。(Source : U.S. Coast Guard)

大々的に宣伝された中国・アイスランドの共同研究センターが破産の危機に直面

アイスランドの地方開発研究所は、シンクエイヤルスヴェイト市レイキャダールのKárhóllにある土地と、その土地に建つオーロラ研究の建物である中国・アイスランド共同研究センターの強制売却を要求していると、アイスランドの新聞「Morgunblaðið」が報じた。この土地は非営利団体オーロラ観測所が所有している。2018年に、多くの注目を集める中、このセンターは開設された。リボンカット式典には、中国とアイスランドの要人が出席した。建物はまだ完全に完成しておらず、建設費が予算を上回ったことが財政難の原因である。

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/much-hyped-china-iceland-joint-research-center-facing-bankruptcy/> (2024.7.30/Arctic Today)



アイスランド政府関係者は、中国の投資がなければ、天文台の建設は「決して、決して」成し得なかっただろうと述べた。(Photo : Melody Schreiber)

アラスカ州当局、天然ガス輸入のためエンスターの5,700万ドルパイプライン建設計画を承認



アラスカ当局が天然ガス供給会社による天然ガス輸入用パイプライン建設の申請を承認したと、アンカレッジ・デイリーニュースが報じた。パイプラインはアッパー・クック湾のポート・マッケンジーまで26km延長される予定である。5700万ドルを投じてパイプラインを延長するこの措置は、来年以降に起こりうる天然ガス不足に備えた予防措置である。エンスターの天然ガス専門家は、クック湾での生産量の減少により、地元のガス供給が打撃を受けると予測している。

記事参照：[Alaska regulators back Enstar's plan to build \\$57m pipeline to import natural gas - ArcticToday](https://www.arctictoday.com/alaska-regulators-back-enstars-plan-to-build-57m-pipeline-to-import-natural-gas/) (2024.7.25/Arctic Today)

中国、新型砕氷船を就役させる



中国天然資源省が極地調査船「Jidi(Polar)」を正式に就航させたことを受け、青島オリンピック・セーリングセンターの埠頭で祝賀会が開催された。

記事参照：[China commissions new icebreaker - ArcticToday](https://www.arctictoday.com/china-commissions-new-icebreaker/) (2024.7.10/Arctic Today)

スヴァールバル諸島の6月は観測史上最も暖かった



アメリカ海洋大気庁（NOAA）の報告によると、2024年6月は175年の観測史上最も暖かい6月となった。研究者たちは、6月は13ヶ月連続の記録的な高温であったと結論づけた。北極域ではより顕著だが、この暑さは世界的な傾向だ。劇的な変化は海でも観測されており、1880年に信頼できる観測が始まって以来、過去30年間は常に海面水温が上昇している。NOAAによると、世界の海面水温は15ヶ月連続で過去最高を記録した。コンスフィヨルデンの海洋生態系は、過去20年間にわたって北極の海洋生物からより大西洋の海洋生物へと変化している。このような大西洋化は、ニーオルスンの国際的な気候科学コミュニティを不安にさせている。

記事参照：[Svalbard had warmest June on record - ArcticToday \(2024.7.19/Arctic Today\)](#)



Images/iStock photo

融解する海氷が地球の冷却能力を大幅に低下させる



1980年以来、北極域では冷却能力が約4分の1低下し、世界全体では最大15%低下している。ミシガン大学の科学者たちによる最近の研究では、海氷の冷却能力が大幅に低下し、地球温暖化を悪化させていることが明らかになったと『Phys.org』が伝えている。北極では、冷却能力の最大かつ最も着実な低下が続いている。南極では2016年まで安定していたが、その年から氷の融解が著しくなり、大陸最大の氷棚の一つでテキサス州よりも広い面積の氷が融けた。

記事参照：[Melting sea ice drastically weakens Earth's cooling power - ArcticToday \(2024.7.18/Arctic Today\)](#)



グリーンランドのヌークフィヨルドでは、溶けた氷が流れ出している。2022年の調査によると、グリーンランド氷床の融解は、20年弱で世界の海面水位の上昇に1.2センチメートル寄与した。(Source：DPA via Reuters)

55のロシア先住民、地域、 民族グループが過激派の レッテルを貼られる



アンドレイ・ダニロフ氏は、現在ノルウェー北部に亡命中のロシア半島出身のサーミ人であり、7月26日に過激派として指定された55の組織のひとつである「ロシア先住民国際委員会」のメンバーである。亡命生活を送っているにもかかわらず「我々の民族の権利のために」自らの組織は戦い続けると彼は言う。「今や、ロシアにおける権利保護を目的とした意見や声明はすべて過激派とみなされる。」「これは先住民にとって転換点だ。ロシアの先住民に対する弾圧と迫害が始まった。今や当局や企業は、開発のために先住民の土地を奪うことができるのだ」と、バレンツ・オブザーバーにダニロフ氏は語った。

「弾圧の勢いは加速している。先住民の権利活動家に対する迫害の手法は激化している」と、ロシア先住民国際委員会は、法務省が同委員会をはじめとする多くの団体を過激派組織のリストに追加した後述べている。過激派取締法は、反対派や依然として反戦論を唱える人々の声を封じるために利用されている。過激派とレッテルを貼られたグループと関わっている個人には、長期の禁固刑、金融取引からの排除、その他の抑圧的な措置が課される可能性がある。

記事参照：[55 Russian indigenous, regional and ethno groups labeled as extremists - ArcticToday \(2024.7.30/Arctic Today\)](https://arctictoday.com/2024/7/30/russian-indigenous-groups-labeled-extremists)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

【編集後記】

Vol.44は、2024年7月後半の記事を掲載しています。7月はアリューシャン列島からアラスカ州における空域および海域ともに中口による米国に挑発的行為ともとられかねない共同演習が行われ、北太平洋側の北極域ではにわかに関係が緊張が高まりました。これが北極域での権力闘争の一環とみなせるのかについてはより詳しく分析していく必要があります。（大西）

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
監修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
WEBサイト：<https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/>

